私のドイツ語の授業とドイツ語教育の諸問題

ドイツ語担当非常勤講師
高岡法科大学助教授　大　山　一　郎

Mein Deutschunterricht und Probleme des Deutschunterrichts

OHYAMA　Ichiro　(TAKAOKA COLLEGE of LAW)

1．教育の方針
2．授業評価のアンケートとその結果
3．ドイツ語教育の諸問題

1．教育の方針

「教養教育におけるドイツ語」の授業の基本方針は，

1）ドイツ語の概略を文法を元にして理解させる
2）原則として宿題を出さない
3）出席を重要視する
4）試験の時には辞典，教科書，ノートの持ち込みを許可する
5）答案用紙を学生に返して，試験問題の解説をする

の５項目である。このことについて補足説明を加えながら，私の教育方針を述べてみたい。

教養教育のドイツ語において，私が学生に求めるものは，文法を中心にしてドイツ語という言葉の概略を理解することである。そのためにドイツ語の骨子となる最低限の規則だけを覚えさせる。その規則もドイツ語全体の中で相互に関連づけて説明し，なぜ暗記しなければならないかを納得させた上で覚えさせるのである。従って，文法の細則の丸暗記は要求しない。また，原則として宿題を出さないのは，その課の文法項目はその日の授業時間内で理解することを前提に，授業に集中させる意味があるとともに，授業だけで初級ドイツ語を十分に習得できると考えているからである。予習や復習に費やされる時間を他のことに有効に使ってほしいと思っているからでもある。私の授業はその日の授業が勝負である。そういうわけで，出席を重要視する。点呼して出欠を確認すると時間がかかるので，座席指定で授業を行う。どの席に座るかは学生の自由であるが，２回目の授業の時に座った席が前期（あるいは後期）中のその学生の座席になる。

次に，試験と成績評価のことであるが，私は１回目のオリエンテーションの時に，「語学という科目には得手不得手があるので，ドイツ語を理解しようと努力する姿勢と理解したことを辞典や教科書やノートを使用してどれだけ答案に書くことができたかを総合して成績を評価する。」と説明している。最低限の事柄だけしか暗記させていないのであるから，試験の際に辞典を使わせるのは当然のことである。ただし，私の試験は，辞典や教科書やノートを使って自分一人で，自分の実力を確認するための試験なので，成績評価を公平に行うために問題の難易度は同じにしてあるが前後左右で試験問題は違っている。つまり４種類の問題を作っている。ところで，教科書とノートの持ち込みを許可したのにはある理由がある。以前，辞典の持ち込みだけの試験をしたときに，多くの学生が辞典の余白に教科書やノートの内容を書き込んでいて，辞典を使わないで書き込みを見て答案を書いていたことがある。それならば，試験問題の内容を変えた上で，すべての持ち

込みを許可した方が良いと判断したわけである。

最後に，学生に答案を返却し問題の解説をすることの意義を述べてみたい。私の試験は，ドイツ語についてどれだけの内容を理解できたのか，どの箇所が理解不十分であったのかを自分で確認するための試験である。従って，答案の返却は自明の理である。答案が返されず，ただ単に成績評価だけであれば，その評価は卒業要件の単位にすぎない。完璧な答案を別にして，優であれ良であれ可であれ，それらの答案には間違いや不十分なところがあるはずで，試験を受けた学生は今後の勉強のためにもそのことを知ることが必要である，と私は考えている。

2．授業評価のアンケートとその結果

「1．教育の方針」で述べたことをオリエンテーションで学生に説明して，前期の授業を行った。私の授業に対する学生による評価のアンケートを後期の1回目の授業の時に実施した。その項目とその結果を次に書いて，私なりの自己点検評価をすることにする。(項目の後にその総数を記入しておく。アンケート総数は2クラスで74である。なお，7－2）と8の所は，自己点検評価に関係するものだけをあげて，全アンケートは資料として最後に載せることにする。)

1．授業について

1－1）内容について

1．簡単　19　　2．難しい　12

3．どちらとも言えない　43

1－2）内容の説明について

1．分かりやすい　68

2．分かりにくい　0

3．どちらとも言えない　6

1－3）説明するときの声について

1．聞きやすい　54

2．聞きにくい　4

3．どちらとも言えない　16

1－4）説明する時の声の大きさについて

1．大きい　1

2．ちょうど良い　65

3．小さい　8

1－5）説明する時の声の早さについて

1．早い　0　　2．ちょうど良い　70

3．遅い　4

2．授業の進め方について

1．早い　3　　2．遅い　2

3．どちらとも言えない　69

3．板書について

3－1）字の大きさについて

1．大きい　2　　2．ちょうど良い　69

3．小さい　3

3－2）字について

1．見やすい　45　　2．普通　27

3．見にくい　2

3－3）板書の範囲について

1．狭い　3　　2．ちょうど良い　71

3．広すぎる　0

4．試験について

4－1）問題の難易度について

1．難しい　14

2．ちょうど良い　56

3．易しい　4

4－2）試験時に持ち込み（辞典，教科書，ノート）が許可されたことについて

1．良かった　72

2．悪かった　0

3．どちらとも言えない　2

5．答案の返却とその解説について

1．必要　57

2．不必要　0

3．どちらとも言えない　17

6．成績評価について（前期の成績表をもらった人だけ答えてください）

1．妥当　63　　2．不満　1

3．分からない　8（前期保留2名）

7．ドイツ語を選択したことについて

7－1）履修したことについて

1．良かった　29

2．悪かった　1

3．まだ分からない　44

7－2）前問で「良かった」と答えた人はその理由を書いてください

〔テストは辞書持ち込み可だし，教科書や授業の内容もまとまっていて分かりやすいから。〕

〔ドイツの文化に興味があり，一度は行きたいと思っているから。〕

〔ドイツ語は難しいと思っていたが，理解できるようになれたので。〕

〔他の言語よりわかりやすい。単位がとれたから。〕

〔なかなかおもしろく興味がもてた。〕

〔専門科目を学ぶときに有利になるから。〕

〔中国語などに比べて難しいけれども，やればやっただけの楽しさが味わえたから。〕

7－3）前問で「悪かった」と答えた人はその理由を書いてください

〔難しいから。〕

8．自由に書いてください

〔試験時間が足りなかった。〕

〔難しい所をもう少しゆっくり進めてほしい。〕

〔とてもわかりやすい授業だったので後期も同様の授業をお願いします。〕

〔先生のおかげで，ドイツ語を楽しく学んでいます。私はドイツ語に対して難しそうだというイメージを強くもっていたので，先生の分かりやすい授業はとても助かります。〕

〔ドイツ語検定を受けたいのですが，どうすればいいのか，又，どのくらいの難易度かなど教えてください。〕

〔辞書の見方を教えてくれたのが良かった。〕

〔板書をノートにまとめやすくして欲しい。〕

〔練習問題を少し増やしてほしい。〕

〔持ち込み可の試験でも，非常に大変な内容であったので，そういう難しさもあるのだ，とつくづく思った。〕

〔試験の問題量が多すぎて，見なおすことができなかったので，問題量をへらしてほしい。〕

上のアンケート結果を見ると，「1．教育の方針」で述べたことが学生たちにほぼ理解されていた，と見なしても良いと思われる。解説を加えながら自己点検評価をしてみたい。

学生は，「ドイツ語は難しい」と思いながら，授業を受けていたようである。とくに，最近履修者が増えている中国語との比較で「ドイツ語の難しさ」を感じている学生が多く見られる。しかし，私の授業で「難しい」と感じた学生は12名（約16%）なので，最初に考えていたほど難しくはなかった，というのが授業を受けてみた後での実感と思われる。文法の細則の丸暗記をしなくて良かったということが，難しさの軽減につながったのではなかろうか。また，分かりやすい説明につとめたことも良かった（分かりやすいと感じた学生68名，約92%）と思われる。厳密な意味では正しくはないが，しかし，ドイツ語の骨子を理解するには分かりやすい，という説明の仕方もある。正確ではないということを断った上で，そのような説明をしたこともある。何よりも分かりやすさが必要である，と私は考えている。

持ち込み可の試験のやり方については，多くの学生の支持を得られた（72名，約97%）。持ち込み可の試験をすると学生は勉強しない，と言う先生がいらっしゃるが，他の科目のことは知らないが，ドイツ語の場合は事情が異なると私は考えている。アンケートの中に，「持ち込み可の試験でも，非常に大変な内容であったので，そういう難しさもあるのだ，とつくづく思った」というのがある。この学生が感じたように，要は試験問題の中身である。ドイツ語の理解度を測るために何をどのように答案に書かせるのか，という問題作成にすべてがかかっている。

答案の返却とその解説についても，私の考えを理解してもらえた（必要と答えた学生57名，約77%）と思う。その上で，自分の成績評価を妥当と答えた学生は63名（約88%）である。答案の返却とその解説は必ず必要である，と私は考えている。ある科目の履修を卒業要件を満たす単なる単位修得だけに終わらせないためにも，また，成績評価の透明性を確保するためにも必要なことであると思っている。ところで，必要と答えた学生57名という数は，私の理想から見ればまだまだ少なすぎる。反省点の一つで，私の授業方針をもっと理解してもらえるよう努力しなければならない。

反省点の二番目は，「練習問題を少し増やしてほしい」というアンケートの要望に関することである。宿題を

出さないというのが私の方針なので，授業時間内にできる練習問題の量がどうしても少なくなってしまうのが現状である。しかし，説明の仕方を工夫して何とか改善したいと思う。

反省点の三番目は，ドイツ語検定試験に関してである。検定試験を受けたいという学生が昨年度はいなかった。そのために今年度その説明をしなかった。予習をほぼ完璧にしてくるある一人の学生には夏休み前に検定試験の話をしたのだが，その他の学生には話をしなかった。これは明らかに先入観による私の誤りであった。来年度は，ドイツ語を学ぶ動機づけの一つとして検定試験の解説をして，試験に対応できるような授業もしたいと考えている。

最後に，出席を重要視する私の授業における欠席の状況は，無欠席が44名，１回が22名，２回が８名，３回以上が８名である。前期の履修者総数が82名なので，約８割の学生が１回以下である。出席重視の考えも学生に理解されたと評価できるのではないか。

３．ドイツ語教育の諸問題

1991年のカリキュラムの大綱化を受けて全国の大学では大学改革とカリキュラムの改善を行っている。ドイツ語教育も例外ではない。それに対して日本独文学会でも，1996年と1997年の春期研究発表会で，「教養部解体とドイツ語教育担当者の諸問題」「大学改革の進行とドイツ語教育の諸問題」というシンポジウムを行った。ここでは，それをある程度ふまえた上でドイツ語教育の諸問題を私なりに考えてみたい。それは「１．教育の方針」で述べた授業をなぜ私が行っているのかの一つの理由になるであろう。また，教育の方針のところで「教養教育におけるドイツ語」と限定したことへの答えにもなるであろう。

大綱化前のドイツ語の授業については，各大学で１年半から２年間で６から８単位の初修外国語としてドイツ語の授業が行われていた。１年次には初級文法と初級読本が２年次には小説や評論等の読解の授業であった。２年次の授業は訳読が中心であったと思う。カリキュラムの改革で槍玉にあがったのはこの訳読の授業である。「実用に適さない」という攻撃である。従って，大綱化を受けたカリキュラムの改革の中でドイツ語の単位が減っていくとき，この２年次の授業が必修から外されたのである。しかし，この訳読の授業は果たして「実用に適さない」ものであったのか。すぐに役立たないという観点から考えればその通りであるが，学問とはそもそも功利性をもとに必要不必要の判断をされるものではないし，また，専門の学部で新しい知識を習得するときに，それも自分の頭でものを考えて習い覚えるときに，訳読の内容は十分に使えるものであったと思う。ただし，かなりの弊害もあったことは忘れてはならないが。この２年次の語学授業が必修から外されたことに学生の語学力の低下の一因があると思われる。

「実用のドイツ語」とは「話せるドイツ語」である，ということに異論を挟むつもりはないが，「話せるドイツ語」を１年次２年次の２年間であるいは４年間で学生に身につけさせるためには，それ相当のカリキュラムが必要になってくることも事実である。私が考えるには，最低でも週５回の授業と15人前後の小クラスが前提である。ネイティブ・スピーカーが必要であることも当然である。それではもし仮にこのような体制が可能であるとき，どの学部の学生にも開講する必然性はどこにあるのか。また，全学で意思の統一が図れるのか。このようなことを考えると，問題が大きいと言わざるをえない。大学は語学専門学校ではないので，話せるドイツ語の専門家を養成するためにどの学部でも学部のカリキュラムを犠牲にするわけにはゆかない。従って，このようなクラスはある特殊な学部学科のみの開講になるであろう。

大綱化後，ドイツ語の授業は１年次週２回２コマ（通年）の選択必修になったのがほとんどだと思われる。これをもとにしてドイツ語教育を考えてみたい。「教養のドイツ語」を行うのか，それとも「実用のドイツ語」を行うのかについてである。前のところで見たように，この状況で「実用のドイツ語」を行うことは不可能であると思われる。現在の金沢大学では１クラス40人が標準（50人までは担当者の裁量）であるが，この数字は大部分の大学でもそうであろう。このとき「実用のドイツ語」のクラスをつくるには２倍のコマ数が必要になってくる。各大学で語学担当者が不足している現

在の状況において，大幅なクラス増加は無理である。更に授業の回数を増やすことも不可能である。それでは全く不可能であるのかというと，そうでもないだろう。次のカリキュラムは私案である。

1年　基礎ドイツ語（1クラス50人）通年2コマ
　　選択必修
2年　訳読による実用ドイツ語（1クラス30人）
　　選択
　　会話による実用ドイツ語（1クラス15人）
　　選択
3年　訳読による実用ドイツ語（1クラス20人）
　　選択
　　会話による実用ドイツ語（1クラス10人）
　　選択

つまり，「話せるドイツ語」は2年次以降にネイティブ・スピーカーのもとで選択で行う。また，訳読による実用ドイツ語とは，各学部の特徴を生かして，専門に関する論文等を読むドイツ語である。専門学部教員の協力のもとで「実用のドイツ語」を二つに分けて行うことができれば，充実したドイツ語教育が実施できるようになると思われる。

最後に，現在の1年次のドイツ語教育について触れておきたい。例えば，会話中心の授業があるが，それが1年次の初修ドイツ語での会話である限り，その会話は旅行に役立つ会話にすぎない。それは「話せるドイツ語」ではないであろう。上で見てきたように，1年次のドイツ語はどうしても「教養のドイツ語」つまり「基礎ドイツ語」にならざるをえないのではないか。授業方法はいろいろあるにしても，ドイツ語という言葉の概略を学習することである。従って，カリキュラムの改革にあたっては，「教養のドイツ語」とは何か，「実用のドイツ語」とは何かということをもう一度考えてみる必要があると思われる。

（資料）

7－2）前問で「良かった」と答えた人はその理由を書いてください

・テストは辞書持ち込み可だし，教科書や授業の内容もまとまっていて分かりやすいから。
・分かりやすい授業で，ドイツ語に親しみを感じるから。
・ドイツの文化に興味があり，一度は行きたいと思っているから。
・自分のやり方にあっているから。
・以前からドイツ語を学んでみたいと思っていたが，文法を学ぶうちにまた興味がわいてきたから。
・ドイツ語は難しいと思っていたが，理解できるようになれたので。
・今のところ，それほど難しくないから。
・他の言語よりわかりやすい。単位がとれたから。
・おもしろいと思えるから。
・理学部なので，そのうち使えるから。
・英語以外の外国語が少し理解できたから。
・とてもわかりやすくてはっきりした言語だと思うから。
・単位がとれたから。
・使うことができる言語の幅が広がったから。
・ドイツ語は難しいときいていたがよく理解できた。
・大山先生のドイツ語の授業を選択して良かったと思う。文法など難しいがわかりやすい。
・英語と類似したところが多くて勉強しやすい。
・高校までで習った英語と発音に関して似たような所があり，とてもなじみやすかった。
・なかなかおもしろく興味がもてた。
・専門科目を学ぶときに有利になるから。
・中国語などに比べて難しいけれども，やればやっただけの楽しさが味わえたから。
・以外とわかりやすかった。
・英語と似ているところがあるので分かりやすかった。薬学部なのでドイツ語が必要になってくるから。
・伸び伸びと授業を受けることができた。
・将来の自分のために役に立つし，普段の生活においても言葉の壁でわからなかったことが少しわかった。
・試験での持ち込みがOKだったから。
・ドイツ語の発音がわかった。

8．自由に書いてください

・このままでいいと思う。
・ドイツ語の文法は聞いていた以上に難しいです。テストも辞書なしでは大変だったろうと思います。持ち込み可で助かりました。板書のまとめ方もわかりやすいのでノートもテストの時大いに役立ちました。
・要望等は特にありません。前期のままの授業で良い

と思います。
・試験時間が足りなかった。
・難しい所をもう少しゆっくり進めてほしい。
・とてもわかりやすい授業だったので後期も同様の授業をお願いします。
・試験の前に小テストがあってよかった。
・前期の中間テストで辞書を忘れて，思った点数が取れなかったので，後期はその点に気をつけたいと思う。
・今のやり方に満足しているので，今までのやり方を続けてください。
・授業は延長せず，まとまりを持って終わる所が好き。少しはやめに終わってくれた日は余裕をもって食事できるので良い。
・先生のおかげで，ドイツ語を楽しく学んでいます。私はドイツ語に対して難しそうだというイメージを強くもっていたので，先生の分かりやすい授業はとても助かります。
・前期通り，分かりやすく授業を進めて欲しいと思います。
・教科書に絵がかかれてあるのは良いと思います。あまり文字ばかりだと見にくい上，少し嫌な気になるので。
・１年時に中国語をとり，院試の関係上少しずつドイツ語に興味をもったことで履修したわけですが，Ａ１，Ａ２ともに言えることですが，非常に楽しく授業に来ることができました。後期もよろしくお願いいたします。
・今のままの授業を続けてほしい。
・ドイツ語はまだよくわからないけど，分かりやすくて，いいと思う。
・ドイツ語検定を受けたいのですが，どうすればいいのか，又，どのくらいの難易度かなど教えてください。
・授業がわかりやすくて，ゆっくりだったのが，すごくありがたかったです。
・昼ごはんを食べて，睡魔も最高潮に達する時間帯にこの授業があるのがつらい。眠気と戦わなければならない。
・ドイツ語は中国語に比べ，それほど簡単でないと聞いていましたが，先生の説明が良かったので，大変わかりやすく勉強できたと思います。
・辞書の見方を教えてくれたのが良かった。
・板書をノートにまとめやすくして欲しい。
・後期もよろしく！
・練習問題を少し増やしてほしい。
・持ち込み可の試験でも，非常に大変な内容であったので，そういう難しさもあるのだ，とつくづく思った。
・単位をもらえたことはもちろんですが，ドイツ語の文法なども理解でき，興味をもつことができた。
・大山先生の授業はすごくわかりやすい。スピードが私に合っていると思った。
・最初ドイツ語は難しくってどうなることか心配していましたが，先生の授業がわかりやすく，他のことは考えず先生の言ったことだけ信じてやりました。「あ！こんなものか！」っていうのが感想です。ドイツ語おもしろいです。
・３限というのは午後の最初の授業ということで寝たくなるが，この授業に関しては集中できたと思う。
・試験の問題量が多すぎて，見なおすことができなかったので，問題量をへらしてほしい。